

平成25年度業務運営懇談会議事要旨

- 1 日 時：平成26年3月7日（金）13：30～16：10
- 2 場 所：独立行政法人農林水産消費安全技術センター本部大会議室7階大会議室  
（さいたま市中央区新都心2-1さいたま新都心合同庁舎検査棟）

3 出席者：

◎座長

木村 真人 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事長

○外部有識者

荒尾 知人 独立行政法人農業環境技術研究所 土壤環境研究領域長

伊藤 和敏 一般社団法人日本農林規格協会 専務理事

梅津 憲治 大塚化学株式会社 技術顧問

坂本 壽文 全国酪農業協同組合連合会 代表理事専務

佐藤 英明 独立行政法人家畜改良センター 理事長

中村 幸二 一般社団法人日本植物防疫協会 技術顧問

渡邊 昭彦 公益社団法人日本広報協会 常務理事

○説明者等

角谷 徳道 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事

片山 信浩 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事

曾根 一人 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事

井上 龍子 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 監事

碓井 憲男 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 監事

原 弘幸 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 有害物質等分析  
調査統括チーム長

小森 栄作 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 企画調整部長

大村 順布 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 総務部長

河本 幸子 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 消費安全情報部長

森山 修実 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 表示監視部長

大橋 史郎 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 肥飼料安全検査部長

早川 泰弘 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 農薬検査部長

※外部有識者（欠席）

天野 徹夫 全国農業協同組合連合会 肥料農薬部長

大木 美智子 財団法人消費科学センター 代表理事

田島 眞 実践女子大学・短期大学 学長

平石 冬樹 株式会社読売旅行 経営戦略室次長

山根 香織 主婦連合会 会長

#### 4 議事概要：

##### (1) 平成24事業年度業務実績評価について

外部有識者	独立行政法人評価委員会というのは内部評価なのか外部評価なのか。
説明者	外部有識者による評価委員会である。委員会は農林水産省に設置されており、さらに農業分科会、水産分科会等の分科会に分かれている。その下も各法人ごとのプロジェクトチームがあり、農林水産消費安全技術センター（以下「FAMIC」という。）では外部有識者5名で構成されている。
外部有識者	FAMICの総合評価はA評価とのことであるが、これまでS評価はなかったのか。
説明者	これまでS評価はない。
外部有識者	評価の中で自己収入の項目がB評価ということであるが、自己収入に係る講習料等はどのような根拠で定めているのか参考にお聞きしたい。
説明者	自己収入の大半は各種検査、検定の手数料収入であり、依頼を受けての収入であるため、年度ごとに変動がある。平成24年度は依頼が少なくB評価となった。改善措置として、今まで無料で実施していた講習会等の費用について、受益者負担の妥当性・合理性が適正に反映されるよう算定し、有料で開催する等、自己収入拡大に向けての取組を実施している。
外部有識者	分析技術や周辺情報に関する講習等は実施しているのか。
説明者	機器分析に関する講習は各機器メーカーが実施しており、FAMICでは、地方自治体の職員に対して分析技術の向上に関する講習を実施している。
外部有識者	農薬の登録手数料は徴収しているのか。
説明者	農薬の登録は農林水産省と一体的に実施しており、手数料はFAMICの自己収入ではなく国の収入となる。

(2) 平成25年度計画及び実施状況について

外部有識者	放射性物質の調査を実施しているということだが、依頼による分析は実施しているのか。また、カビ毒の分析を実施しているということだがカビ毒の分析結果は公表しているのか。
説明者	放射性物質の分析については、農林水産省から指示されたものについて実施している。依頼分析について、現在では地方自治体や民間企業においても分析を実施しているため、FAMICで依頼分析は行っていない。
説明者	サーベイランス・モニタリングに係るカビ毒調査について平成22年度までの結果を取りまとめたデータ集を農林水産省が発行している。
外部有識者	肥料及び飼料中に含まれる放射性物質の調査の目的を教えてください。
説明者	肥飼料については暫定許容値がある。事故原発が近い福島県等の堆肥は高濃度の恐れがあるため、農林水産省からの要請に基づき、暫定許容値を満たしているか測定し報告している。福島県等へは農林水産省からの報告となる。飼料についても農林水産省からの要請に基づき、飼料原料をモニタリングとして測定し報告している。
外部有識者	食品については厚生労働省のホームページで情報を得ることができるが、肥料については現在福島県のホームページに掲載されているのか。
説明者	掲載されていると聞いている。
外部有識者	肥料及び飼料の放射性物質について現在の状況はどうか。
説明者	肥料については堆肥や汚泥肥料、腐葉土等を測定したが、以前は一部高い値のものもあった。飼料は高い値は認められていない。
外部有識者	牧草等の飼料については一定の基準値が定められているが、脱脂粉乳等、生乳から濃縮をするものは放射性物質も濃縮されるため、地方

自治体によっては国で定めた基準値よりも低い値で規制しているところもある。

外部有識者

アウトソーシングについて、メールマガジンの配信作業、広報誌の編集及び発送作業、ホームページの作成・更新作業とあるが、広報誌やホームページの作成について、職員が行っている作業もあるのか。

説明者

メールマガジンについては内容の作成は職員が行っており、単純な配信作業のみアウトソーシングしている。ホームページについてはレイアウトと内容の作成は職員が行っており、プレスリリースのリンクを貼るといった単純作業のみアウトソーシングしている。

説明者

広報誌については内容は職員が作成し、レイアウトや発送作業は業者にアウトソーシングしている。

外部有識者

計画では積極的にアウトソーシングを実施するとなっているが、現在職員で行っている業務の中でアウトソーシングを検討しているものはあるのか。

説明者

翻訳作業のアウトソーシングを検討している。また、積極的なアウトソーシングの取組として毎年各部署においてアウトソーシングする業務があるかどうか検討している。

外部有識者

放射性物質の測定は当法人でも実施しているが、大変に時間がかかる。短時間で結果がでるような技術開発を期待する。

また、資料に示された食品表示の偽装に関する分析結果について、報道等から受ける印象より偽装の割合が少ない気がするが実際のレストラン等の偽装を反映した割合と考えられるか。

説明者

放射性物質の測定については簡易測定機によるスクリーニング法の検討等を行ってきたが、現在の機器では正確な値の測定に時間がかかるのはやむを得ないという状況である。

説明者

食品表示偽装に関して、FAMICで実施している分析対象はホテル等外食産業で提供されているものではなく、スーパーマーケット等店頭で販売している商品であるため、外食産業での偽装を反映したものは異なること、また、分析を実施した時期が報道等の後ということで、偽装自体が減っているのではないかと考える。

外部有識者	農薬の登録について申請から登録完了まで平均どのくらいかかるか。
説明者	申請内容によるが概ね2、3年程度かかる。農薬登録についてはFAMICが実施している業務以外にも厚生労働省、食品安全委員会、環境省等、さまざまな機関が関わっているため、FAMICの努力だけで登録までの期間を短くするのはなかなか難しいと考える。

### (3) 独立行政法人の見直しについて

外部有識者	先程も政府の方向性として随意契約をできるだけ少なくするという話があったが先般の震災の際も一般競争入札にこだわるあまり、業務のスピードが遅れたとの報道があった。契約方式については一般競争入札の弊害や随意契約の必要性等勘案しながら進めていただきたい。
外部有識者	独立行政法人の見直しの結果、FAMICは単年度管理型の法人として、業務を中期（5年）から単年度管理へ移行することになり、配慮しなければならないことが多々あると思うが、単年度管理へ向けて現在検討していることがあるか。
座長	個々の業務については、中期計画に基づき実施しているところであるが、年度計画を作成し着実に実施するという観点では現在でも実施しているところであり、単年度管理型の法人への移行の影響はそれほどないのではないかと考えている。

### (4) 各委員からのご意見等

外部有識者	私共の組織でも、米におけるカドミウム、ヒ素の研究を行っている。食品の安全・安心についてはこれから様々な問題も起きてくると思うので調査研究業務を充実していただきたい。また、こうした調査研究だけでなく様々な観点から連携をとって参りたい。
外部有識者	JAS規格について業界や企業の方から、これまでの品質を保証するというものだけでよいのかとの指摘を受けている。省庁間のやりとりやFAMICでは直接関われない点等、難しいところはあると思うが、抜本的なJAS規格の見直しということでISO22000やHACCPの考え方を取り入れたり、これらを踏まえた取組を検討していただきたい。

外部有識者

農薬関係業務について、海外とのやりとりも多いと考えられるので国際的な視野に立った人材育成について取り組んでいただきたい。

ホームページについて、個々の情報については分かりやすくかつ詳しく掲載されているが、包括的な内容の掲載もお願いしたい。

外部有識者

FAMICでは様々な業務を実施しており、これらの業務は各業界にとっても大変重要であるし、国民にも食の安全・安心という観点から理解いただける業務であると思う。FAMICの取組がアピールできるよう広報活動の充実を期待したい。

外部有識者

FAMICでは高度な技術の基盤のもとで業務を実施していることから検査、分析を行う人材や若い人材の育成が大事であると考えます。人材育成として各種研修や海外の会議への参加、学会発表を実施しているとの話があったが、その他にも博士号取得、論文の執筆や表彰制度等、人材育成に配慮したシステムを構築し、さらなる取組を期待したい。

外部有識者

調査研究業務についてさらなる充実とその成果を様々な方が利用できるようホームページ等で積極的に公表していただきたい。

同業者でFAMICの存在自体を知らない方が多いと感じる。このような観点から更に広報活動に力を入れていただきたい。

外部有識者

広報誌については、紙媒体ということで配布先が限られることもある中、デジタル媒体としてFlash版で閲覧できるようにしたり、今年度はスマートフォン対応にもしたりして、より多くの人にいつでもどこでも閲覧できるような取組をしており評価できる。今後も、継続して実施していただきたい。また内容についても職員一人一人を登場させ、親近感を持たせ新しい切り口でFAMICがより身近に感じるような情報発信に努めていると思う。

ホームページについては非常に多くの情報が掲載されており、使いやすいが、インターフェイス（トップページ）のデザインが一昔前の印象を受けるため、見直しの検討をしてはいかがか。

最近では国や自治体、独立行政法人等の公的機関を対象としたホームページのランク付けをするメディアがあるので参考にさせていただきたい。

また、組織全体の経営戦略の中に広報をどう位置づけるのかという観点も大切になる。例えば自己収入の確保として、単に講習会を実施

しているという情報を発信するだけでなく、広報誌やホームページでの見出しの付け方や発信の仕方などを工夫し、参加者の増加に結びつけていくような検討も必要と考える。

(5) 閉会の挨拶

座長

本日はお忙しい中、長時間にわたってご議論いただきありがたく思う。指摘の中には普段意識していたが改めて、より深く考えなければいけない内容もあった。委員の皆様のご意見はまさに国民の目線に沿ったご発言であり、今後の業務に生かして参りたい。

(以上)